

## アナログ経営がますます輝く時代へ (11)

### 『その時だから出来ること』

会社でも個人でも、その時だから出来ることがあります。その時だから、今だから出来るし、許される、というようなことです。そして、それとは別に、遅かれ早かれいずれやらなければならないということ、一時的に避けてやり過ごすことが出来ても、いつかはやらなければならないこともあります。

例えば会社の創業期、数人の社員だけで、売上もなかなかあがらない、お金もない、そんな時だからこそ出来ること、その時だからやって許されることは多々あります。だからこそ今やらなくてもいいこと、いずれやらなければならないとしても将来でも出来ること、許されることは、後回しで良いと思います。それよりも『今だから出来ること』に、全力を出して欲しいと思います。

創業期の思い出として、後になって笑い話で済むような事でも、五年後、十年後に、やってみたい、試してみたいと思

っても、もう出来ない、というようなことも色々あると思います。

個人でも同じようなことが言えます。誰も最初は新入社員です。新卒や中途の違いはありますが、それぞれ、最初だから、入社してすぐだから、聞けることや許されることがあるはずで、それが後になると、今更聞けなくなる、許されなくなる、ということは、みなさんも経験があるでしょう。そうした、その時だから出来ることを着実にこなして、成長して欲しいと思います。

そして私は、新入社員には『プライドの持ち方』を考えて欲しいと思います。次は自分が人（新入社員）に伝えていく立場になるわけですから、もう一步踏み込んだレベルで、プライドと誇りを持って欲しいと思うのです。

プライドが高いのは大いに結構です。世間では、プライドが高い人間はダメと言われることもありますが、私は、プラ

イドは高ければ高いほど良いと思っています。重要なのは、プライドの持ち方、どこにプライドを持つのかです。「こんなことを聞いて恥をかきたくない」「だからそんなことはやらない」というプライドもあれば、「そんなことすらできない事がカッコ悪い」「結果はどうあれ、やらないこと自体がカッコ悪い」というところにプライドを持つ人もいるでしょう。プライドを持つこと自体がダメなのではなく、プライドの持ち方を間違っただけではないということです。のちに活躍することへのプライドを大切にすることであれば、何をすべきかが見えてくるはずです。

そうして『その時だから出来ること』をすることが、将来に語り合える、会社や個人の歴史となるのです。将来に語るものがないことほど、悲しいことはありません。みなさんは、自らの手でどんな歴史を創りますか？



笠井 大祐

BCホールディングス株式会社  
代表取締役社長

「賃料適正化サービス」のパイオニアであるビズキューブ・コンサルティングを2001年に創業。その後、2010年7月ホールディングス体制へ移行し、店舗経営に特化したコンサルティング会社として事業領域を広げ、現在は、コスト適正化事業、教育事業、人材サービス事業、マーケティング事業、不動産情報事業、海外進出・日本進出支援事業、店舗経営事業の7つのセグメントで日本、タイにおいて事業を展開。今後もグループの様々なサービスで積極的にサポートし、アジアのみならず世界のサービス業のトータルソリューションカンパニーを目指す。  
<http://www.bc-holdings.co.jp/>